

Osaki

おおさき
～大きい輪、和、話～



VOL. 149

令和元年10月15日発行

宮城県大崎農業改良普及センター

〒989-6117 大崎市古川旭四丁目1番地1号

TEL (0229) 91-0727 (地域農業班)

(0229) 91-0726 (先進技術班)

FAX (0229) 23-0910

HP <http://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

E-mail osnokai@pref.miyagi.lg.jp



水稻調査ほ場の収量調査（加美町小野田）

「大崎耕土」で多彩な米づくり

当管内は、世界農業遺産に認定された「大崎耕土」を有する豊かな農業地域で、良質米の生産が行われております。主力の「ひとめぼれ」を中心に、「ササニシキ」、もち米の「みやこがねもち」、酒造好適米の「蔵の華」の栽培とともに、「ささ結」や「ささゆた香」、低アミロース品種の「ゆきむすび」など地域ブランド米の取組も進められています。

また、昨年産で本格デビューした「だて正夢」、玄米食向け品種「金のいぶき」については、みやぎ米の評価向上の牽引役として、出荷量の増加が期待されており、実証展示ほの設置や栽培塾の開催による栽培技術の普及定着に努め、「だて正夢」の栽培面積は昨年に比べて倍増しています。

さらに、県内の約6割の水稻種子生産を担う産地であり、育苗時からの巡回や生育段階に合わせた適期管理指導により、種子伝染性病害の発生防止や異品種の混入防止などの徹底を図り、品質の確保と安定生産に努めています。

普及センターでは、今後とも、関係機関等と連携しながら、地域の特徴を生かし、需要に応じた多彩な米づくりの推進、優良種子の安定生産に向けた支援を継続してまいります。

技術次長（総括担当） 吉村 正久

普及センターが取り組むプロジェクト課題の活動状況

活力ある中山間集落の実現に向けて

加美町西部葉菜山の南東の麓に位置する東鹿原（ひがしかのはら）集落は総世帯数約90戸、農家戸数約60戸の中山間地帯にあります。地域の営農は平成19年3月に設立された東鹿原集落営農組合が担っていますが、組合員の高齢化が進んでおり、地域の農地の荒廃を防ぎ後代へと継承していくため、組合員の一部で令和2年度を目途に法人を立ち上げる計画が進んでいます。

当地区では、これまで水稻の作付けがほとんどで、その他の収益性の高い作物の経済栽培は行われていませんでした。また、近くに郡内で最も集客力のある観光施設や大型の直売所があることから、高収益作物の生産、販売やグリーン・ツーリズムなどによる都市部との交流の拡大により集落の活性化が期待できると考えられます。一方で近年、イノシシを中心とした鳥獣害の発生が問題となっており、安定した営農環境を維持していくためには鳥獣害対策が喫緊の課題となっています。

そこで、普及センターでは平成30年度から令和2年度までの3か年にわたり当地区をプロジェクト

課題の対象とし、法人化に向けた準備、稲作以外の高収益作物への取組、恵まれた立地条件を活かした都市部との交流推進、鳥獣害対策の4つの項目を柱に支援を行っていくこととしました。

令和元年度には法人化に向けた先進事例調査としての視察研修、水稻に代わる高収益作物として春タマネギの試験栽培、鳥獣害対策として非農家を含めた集落全戸への対策資料配付や電気柵設置後の管理状況点検、先進事例の視察などを行っています。

普及センターでは、今後も来年度に予定されている法人の設立に向けた準備の支援を中心に中山間地域の特性を活かした活力ある営農システムの確立に向け支援をしていきます。



岩出山地域における園芸品目の生産拡大を目指して

大崎市岩出山地域では、担い手の高齢化や減少等の中山間地域に共通する課題がある中、地域の農業者や法人が協力して園芸振興に取り組む機運が高まっており、集客力の大きい直売所向け「花き類」及び豊富な湧き水を活用した「せり」の生産拡大に向けた新たな取組が行われています。新規に取り組む経験の浅い生産者が多いため、早期の生産安定に向けて基本的な栽培技術の習得や地域に適した栽培方法の検討、消費者ニーズに対応した計画的な生産・出荷体系の確立等が課題となっています。

そこで、普及センターでは昨年度に引き続き「あ・ら・伊達な道の駅花卉部会」及び「岩出山地域のせり生産者」を対象としてプロジェクトを展開し、栽培技術習得と出荷販売力の向上に向けた支援を行っています。

これまでの活動として、花卉部会に対して露地ぎくを中心とした盆・彼岸向け仏花の栽培・出荷技術習得に向け、栽培ほ場をみんなで巡回し、栽培管理について、お互いに意見交換を行い、理解を深めて

いきました。また、商品力向上及び新たな品目の取組みを目的に寄せ植え研修会を実施しました。

せりについては、作付面積に応じた十分量の種せり確保が課題となっていたため、親株管理・養成技術習得に向けた技術支援を行ったほか、採苗数向上に向けて2種類の親株管理方法の比較試験を昨年に行き続き実施し、地域の環境に適した栽培方法の検討を行っています。また、先進地のせり生産現場を視察し、調整作業等について研修しました。11月からの収穫に向けて期待が高まっております。今後も需要に応じた生産量・品質の確保に向けた各種支援をしていきます。



岩出山産大豆の 収量・品質安定化を目指して

大崎市岩出山地域では、水田農業を推進していく上で大豆は重要な作目となっています。また、平成30年に「いわでやま凍り豆腐」がG I（地理的表示）に登録され、今後ますます岩出山産大豆の収量・品質の確保が求められています。しかし、岩出山地域は、大豆の連作ほ場が多く、地力の消耗、アレチウリや帰化アサガオ類といった難防除雑草の発生等が収量・品質に大きな影響を与えており、また一部生産者は作付面積が大きく、適期に作業ができないといった現状です。

そこで、普及センターでは、岩出山地域の大豆の収量・品質の安定化に向けてプロジェクトを展開し、栽培技術習得及び作業改善に向けた支援を行っています。

これまでの取り組みとして、J Aと連携のもと、栽培講習会や現地検討会を開催し、土壌診断や雑草防除などの栽培管理について巡回指導しているほか、

県古川農業試験場と協力し、難防除雑草体系防除の実証ほ及び土壌改良資材を用いた土壌改良の実証ほを設け、調査を実施しています。また、次年度に向け作業改善を行うため、作業工程管理の現況調査を行い、その中ですぐに改善できることがあれば改善策を示してきました。

今後も岩出山地域の大豆の収量・品質向上に向けて支援を続けていきます。



新規就農した和牛繁殖農家の 飼養管理技術向上と 経営安定を目指して

和牛繁殖経営では、農家の高齢化などにより飼養戸数が大幅に減少しています。これに伴って本県の子牛市場における取引頭数は、平成29年度には15,952頭（平成22年度比で80%）と減少傾向にあります。一方で、子牛の取引価格は、平成22年度の420千円から平成29年度には796千円へと高騰しました。

このように生産環境が大きく変化する中で、大崎管内では平成27年以降、9名の認定新規就農者が和牛繁殖を主とする経営を新たに開始しています。子牛価格の高騰が続いているものの、TPP11をはじめとする国内外の環境の変化が経営へ影響を及ぼす恐れがあります。

そこで、普及センターでは3名の対象者とともに、「①雌牛の繁殖管理記録を整理し活用する」、「②子牛の体尺測定、体型審査を実施し、高い資質を持った子牛を育成、販売できるようにする」ことにより、飼養管理技術及び経営管理能力を向上し、経営の安

定を図りながら経営規模の拡大を目指すことにしました。

これまでの活動では、繁殖台帳の整備を支援するとともに、毎月、みやぎ総合家畜市場（美里町）で開催される子牛市場へ出荷する子牛の体尺測定、体型審査を行い、上場体重及び販売価格等を記録、生産者への情報提供をしています。また、畜舎での体尺測定と給与飼料の調査も実施しました。

今後は、対象者間での情報交換や先進農家の視察などを計画しており、技術習得や経営能力の向上を目指して支援していきます。



そばの生産性向上による 中山間地域を担う法人経営の安定化

大崎市鳴子温泉地域では、そばの生産が振興されています。その中でも平成26年に設立された㈱スマイルフィールドはそばを主要な生産品目とし、耕作放棄地の解消や地場産のそば粉を活用した6次産業化にも取り組む先進的な経営体で、鳴子温泉地域のそば総作付面積の4割程度(36ha:H30)を担っています。一方で、そばの収量は設立当初見込みの7割程度(H30)であり、地域振興作物の生産振興のためにも収量向上が必要です。また、中山間地域に300ものほ場が分散しているため、経営規模拡大のためにはほ場管理の効率化が必要となっています。

このため、今年度普及センターでは、㈱スマイルフィールドを対象とし、排水対策技術等の導入によるそばの安定生産と、ほ場管理システムの導入による効率的な作業管理を支援しています。

まず古川農業試験場の協力により、高速畝立て播種機による実証試験を実施しました。夏そばでは播種速度の速さと精度の正確さから、対象者の評価は高くなりました。生育は順調であり、特に湿害ほ場においては実証区の方が生育良好でした。7月には実証試験現地検討会を実施し、対象農家の他、鬼首地区の生産者や加美町の新規栽培者も出席し、活発な意見交換が行われました。

また、ほ場管理システムの導入により、ほ場マップや作業の可視化及び共有化が図られ、経験の浅い後継者でも作業指示が容易に出せるようになりました。さらに、普及センター用のアカウントを作成してもらい、活用状況について情報共有できるようになりました。今後は先進地視察や研修会等への参加を誘導する予定です。

中山間地域を担う法人の経営安定化にむけ、引き続き支援していきます。



～新しい食品表示やHACCPを学ぶ～ “農産加工品における食品表示研修会”を開催

8月23日に、農産加工等に取り組んでいる方や直売所の運営者等を対象に、県大崎保健所より講師を迎えて「農産加工品における食品表示研修会」を開催しました。

平成27年春以降、食品表示法や加工食品の原料原産地表示制度が施行され、新ルールに基づく食品表示が必要となったほか、これまで任意表示だった栄養成分表示は原則として全ての加工食品に表示が必要となりました。また、全ての加工食品において原料の原産地表示が必要となり、これらは今後順次経過措置期間が終了します。さらに、昨年、食品衛生法の改正が公布され、全ての食品事業者はHACCPに沿った衛生管理を実施することとされています。

研修会では、変更された食品表示のポイントを確認したほか、栄養成分表示については、食品の標準成分表を基に自分で計算して求める方法を具体的に学びました。講師からは「自己チェックリスト」等を活用して表示内容を確認し実践することが大切と

の説明がありました。また、HACCPの手法を取り入れた衛生管理のポイントを学び、食品製造における衛生管理の重要性について理解を深めました。

参加者の中には、研修会終了後も講師に個別相談を行う方もおり、新ルールに沿った新しい食品表示や自身の商品製造時の衛生管理を再確認する機会となりました。



大崎地域認定農業者協議会 研修会が開催されました

7月11日にアインパルラ浦島において、大崎地域認定農業者協議会（佐々木郁郎会長、会員数1,649人、以下「協議会」）が主催する研修会が開催されました。

研修会は、通常総会後、会員の経営力向上等を目的として毎年開催しているもので、当日は会員や農業関係者等約110名が参加しました。

今回は「スマート農業の現状と今後の展望」と題して、北海道大学大学院農学研究院 副院長 野口伸教授から、今後、熟練農業者が減少する中で、経験と勘の農業からデータに基づく農業への転換が必要との展望について、分かり易く丁寧な御講演をいただきました。

スマート農業については、作物ごとで導入できる技術の差など克服しなければならない課題も多いで

すが、導入することによる「見える化」、人手不足や後継者育成、先端技術の導入による生産性向上など農業現場の期待も高まっている状況です。

今後、「農業を若者があこがれる産業」とするためにも、スマート農業の支援体制を整備していく必要が求められています。



“農地バンク”で農地の 貸し借りを応援しています！

農地バンク（農地中間管理事業）では、農地の貸し借りについて悩みをお持ちの農業者の皆様のお手伝いをしています。

例えば、①作付面積を増やして経営規模を拡大したい、②分散した農地をまとめたい、③農業をリタイヤするので農地を貸したい、④新規就農するので農地を借りたい等の意向をお持ちの方は、農地バンクを活用してみませんか。

以下は、農地バンク利用者の声の一部です。

出し手（貸し手）Aさんの場合：

- ・受付窓口である農業委員会やJAの説明がわかりやすく、手続きも簡単で時間もかからず済みました。また、機構さんに貸した後も、安心して任せられる担い手に調整してもらえました。

受け手（借り手）Bさんの場合：

- ・営農計画どおり規模拡大ができました。出し手とのマッチングも希望どおりにスムーズに進めてもらえました。今後も地域の担い手として頑張りたいと考えています。

農地バンクは農地中間管理機構との契約となるので、このように出し手・受け手双方とも安心して農地の貸し借りが可能です。

詳しくは、各市町農政主務課、農業委員会（農業委員及び農地利用最適化推進委員）、JAのほか、農地バンクの運営主体である宮城県農地中間管理機構（公益社団法人みやぎ農業振興公社）に在籍し、県内各地に配属されている地域コーディネーター（CD）にご相談ください。大崎管内では、現在、下記3名のCDが活動中です。



佐々木俊一 CD



佐藤雄一 CD



櫻田克嘉 CD

駐在場所：宮城県北部地方振興事務所農業振興部内（大崎合同庁舎3階）

駐在場所：JA新みやぎ涌谷営農センター

担当エリア：大崎市（田尻地区除く）、色麻町、加美町

担当エリア：大崎市田尻地区、涌谷町、美里町

大崎4Hクラブ員募集!

将来の農業を担う青年農業者同士がお互いに切磋琢磨し高め合うことを目指して、大崎4Hクラブでは現在13名で活動をしています。水稻、園芸、畜産、雇用就農者と幅広い背景をもつクラブ員同士が、今年度は「将来に向けた仲間作りと経営力の向上」をテーマとして視察研修会や地域農業支援活動を実施してきました。視察研修会では県農業・園芸総合研究所の最新研究や、少量多品目栽培による独自販路を開拓している経営体を視察し、これからの農業の可能性について学習しました。親子農業体験支援では、地元小学生親子に農業の面白さ、食料の大切さを



を伝えました。

また、課題解決を目指して取り組む「プロジェクト活動」や農業への想いを伝える「農村青年の主張」で、宮城県代表者として東北農村青年会議所で発表しました。このことにより、宮城県内をはじめ、東北6県、全国と交流を広げ、地域を超えた人脈も形成できます。

初年度会費無料。活動見学も随時受け付けています。地域の中で同年代の相談相手がいらない方、仲間とともに農業を盛り上げていきたい方はぜひ御連絡ください。

大崎農業改良普及センター地域農業班

TEL: 0229-91-0727



宮城県農業大学校令和2年度学生募集のご案内

宮城県農業大学校は、本県農業の次代を担う優れた経営者や指導者の養成を目的とした2年制の専修学校です。

募集学部、募集人員、募集期間は下記のとおりです。詳しくは大学校ホームページにて確認ください。
(<http://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/>)

●**募集人員** 55名（水田経営学部15名、園芸学部15名、畜産学部15名、アグリビジネス学部10名）

●一般入学試験（前期）

募集期間：令和元年11月7日～11月22日

試験日：令和元年12月6日（金）

●一般入学試験（後期）

募集期間：令和2年1月17日～1月31日

試験日：令和2年2月14日（金）

※前期試験で定員に達した学部は後期試験を実施しないことがあります。一般入校試験（後期）の募

集人員は令和2年1月上旬にホームページ上に掲載します。

問い合わせ先

宮城県農業大学校教務部 TEL 022-383-8138

みやぎまるごとフェスティバルが開催されます

みやぎまるごとフェスティバルは、今年で20周年を迎え、10月19日（土）、20日（日）に宮城県庁1階、県庁前駐車場、勾当台公園及び市民広場で開催されます。県内の農林水産業者、製造加工業者、販売業者及び技能者等が一堂に会し、県産品や技能者の作品等の展示、販売、実演が行われます。

また、県庁1階ロビーでは宮城県農林産物品評会と花き品評会が開催されます。昨年は当管内で見事6名の方が入賞しました。今年も管内から多数の農林産物等が出品されます。

ぜひご来場ください。